

画像工学同窓会会報

<http://www.gazo-dosokai.jp/>

同窓会会長に就任して

平成19年度・20年度 画像工学同窓会会長 犬養 俊輔



私は常々、印刷工学科・画像応用工学科の卒業生は多数が広告及び印刷関連業界にいるのに繋がりが弱く、もっと交流の機会が持てれば仕事でも人生に於いても楽しい物になるのに残念だと思っていました。私自身、大学生

活は授業にも大して出席もしない劣等生でしたが、十年間のサラリーマン生活に於いても、その後独立して会社を興した後も沢山の大学の同級生・諸先輩に助けられて来ました。それは、決して物質的な意味ではなく、新しい技術情報を知る事により、事業の戦略を練れたり、頑張っていらっしゃる先輩の話を知る事により励みになったりして、心底、千葉大学印刷工学科を出て良かったと感謝して居ります。

そんな私が、同窓会会長を拝命してやらなくては行けない事は、現役学生を含めた世代を越えた交流の機会を作り、もっともっと千葉大学の仲間がより親しく交流出来る場を作れたら嬉しいと思っ

て居ります。2年間の中で、どれだけの事が出来るか分かりませんが、大学の在校生、卒業生共に交流を深め、且つ結末の芽生える機会を作る事を、私の唯一の役目と心得、頑張る所存ですので、皆様の心よりのご支援ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

追伸

取り敢えず、2月7日(木)の同窓会に現役学生を招待します。又、2008年7月頃、バスを仕立て、印刷会社及び画像処理機械メーカーの見学と都内での立食パーティーを予定して居ります。これらが、先日の同窓会幹事会で決定致しました。

これも現役学生及びOBの方々にお声を掛けますので、多数のご参加を宜しくお願い申し上げます。アドレスの分かっているOBの方には、Webからの情報を送信していく予定でも有りますので、宜しくお願い申し上げます。

画像工学同窓会 総会・懇親会・技術講演会のお知らせ

平成19年度の定期総会および懇親会を下記のように開催致します。
 今回も昨年度と同様に多くの方に参加頂けるようPAGE2008に合わせた開催です。
 是非、皆様お誘い合わせの上、ご出席下さいますよう、ご案内申し上げます。
 また今年度も、総会に先立ち、第8回技術講演会を開催いたします。
 総会や機材展と同時に、こちらにもご参加頂けますよう、ご案内申し上げます。
 なお、ご参加の有無は同封の振込み用紙にご記入の上ご送付下さい。

記

日にち：2008年2月7日(木)

場 所：サンシャインシティ文化会館 704・705・706 会議室

第8回技術講演会

時 間：15:30～17:00

場 所：704・705 会議室

参 加 費：無料

※講演15:30～16:45(講演者・題目は、決まり次第同窓会ホームページに掲載致します。)

平成19年度定期総会

時 間：17:00～17:30

場 所：706 会議室

議 題：平成18年度事業報告、会計報告
 平成19年度事業計画、予算案

懇親会

時 間：17:30～19:30

場 所：704・705 会議室

参 加 費：7,000円 ※当日お支払い下さい。

※出席される方は、同封の振込み用紙の出欠欄にご記入の上、1月31日(木)までに到着するよう、早めにお申込み下さい。

サンシャインシティコンベンションセンターTOKYO

〒170-8630 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号 交通：池袋駅東口から徒歩8分 東池袋駅(地下鉄有楽町線)2番出口から徒歩3分

<http://www.sunshinecity.co.jp/information/access.html>

学科の近況 情報画像工学科だより

画像マテリアルコース長 北村孝司 記



産学技術交流会



IGAS2007



工学部祭

【イメージサイエンスを教育する画像科学科が誕生】

平成10年度に工学部が改組され情報画像工学科がスタートしました。その後、広い専門分野を包含した学際化では学生にとって専門性が見えにくい、さらに、きめ細かい教育を行うために適正サイズの小学科への整備が必要であるとの考えに至り、平成20年度から6類10学科で構成される新しい工学部へ改組することになりました。現在の情報画像工学科は第6類(情報画像工学)に属する画像科学科と情報画像学科の2つの新しい学科となります。画像科学科の教育は「光と物質のかかわり」、「画像を作るマテリアル」そして「画像を見る人間」の3つの柱として構成されています。画像を見る目で画像材料を設計する力を教育するものです。情報画像学科は情報処理技術を生み出すことの出来る人材の育成を目指しています。画像科学科と情報画像学科の学生定員はそれぞれ45名と80名です。

大学院の改組は平成19年度に行われました。自然科学研究科は工学研究科、理学研究科、園芸学研究科、融合科学研究科の4つの研究科に改組しました。今回、新たに設置した融合科学研究科はナノサイエンス専攻と情報科学専攻で構成されています。情報科学専攻は知能情報コースと画像マテリアルコースで構成され、工学部画像科学科の卒業生は主に画像マテリアルコースへ進学することになります。

画像マテリアルコースの教育プログラムは、情報化社会をリードするイメージサイエンス工学分野の高度な専門家や研究者を育成することを目標としています。教育研究領域は「画像化学領域」「画像応用物理領域」「画像表

現領域」の3領域で構成され、それぞれの先生方が配置されています。同窓生の皆さん、情報科学専攻に入学して博士の学位を取ってみませんか。興味のある方は遠慮なく連絡ください。融合科学研究科 情報科学専攻 (博士前期課程/博士後期課程)

画像マテリアルコース

- 画像化学
- 画像応用物理
- 画像表現

【学科の取り組み】

● IGAS2007の展示

国際印刷機材展IGAS2007が平成19年9月21日(金)から27日(木)まで東京ビッグサイトで開催され、その中の先進技術展示コーナーで情報画像工学科から研究成果を発表した。北村・宮川研究室(電子ペーパー)、小関研究室(UVインキ)、小林(裕)研究室(感性工学)、三宅研究室(画像処理)が展示を行いました。

● 工学部祭

平成19年11月3日(土)、4日(日)に千葉大学にて恒例の工学部祭が開催され、学科からも参加しました。高校生のためのサイエンスイベントとして「ホログラフィーワークショップ2007&ホログラフィー用感光材料の研究」を開催しました。ここではホログラムの作製実習と研究紹介を行いました。さらに、小林(裕)研究室では、「感性にうったえるデジタルイメージング」、北村・宮川研究室では「未来の紙:電子ペーパー」の展示を行いました。

● 第2回情報画像産学技術交流会

情報画像工学科では、2004年に第1回情報画像産学技術交流会が学科の研究活動や

教育システムを皆様に知っていただく場として実施されました。そして、前回に引き続き産業界と大学を結びつけ互いの意見を交換する機会として第2回情報画像産学技術交流会が2006年12月19日千葉大学けやき会館で開催されました。会場を埋め尽くすほどの多くの参加者をお迎えしての開催でした。小林裕幸学科長の挨拶に引き続き、複数の教員が協力して進める学科発信研究プロジェクトとして『ユビキタス画像通信ネットワーク』、『次世代プリンタブル技術の創成』の研究成果が紹介されました。次に、これからの学科の中心として活躍が期待される若手教員の研究成果として『画像形成キーマテリアル:光酸発生剤』(宮川信一助教授)、『光波センシングによる防災システムの開発』(椎名達雄助手)、『複雑な環境における人間の視覚・色覚メカニズム』(溝上陽子助手)の3件が紹介されました。わかりやすい興味を持つ研究紹介でした。そして、各研究室から研究シーズの紹介が18件行われた後、レセプションホールにてポスター展示が行われました。次回もご期待ください。

【学科教員の動向】

平成18年10月 富永昌二教授が着任されました。コンピュータビジョン、色彩工学などの画像処理が専門です。

平成19年3月末 市川熹教授、長谷川朗教授が定年退職されました。

平成19年10月 黒岩眞吾教授が着任されました。音声信号処理が専門です。また柴史之助教が准教授に昇任されました。ナノ微粒子、コロイド化学が専門です。

フォトポリマー研究の先駆者

角田隆弘先生を偲ぶ (山岡亜夫 記)

本学名誉教授角田隆弘先生が、去る2007年10月3日多くの方の愛惜のうちに90年のご生涯を全うされました。謹んでお悔やみ申し上げます。

先生は千葉大学印刷工学科の前身である東京高等工芸学校印刷工芸科を昭和15年にご卒業後、東京工業大学染料化学科を経て、昭和27年に千葉大学工学部に赴任されました。爾来、昭和57年ご定年で退職されるまで印刷工学科で教鞭をとられました。

先生はご専門の染料化学の立場から、それまで工芸的側面の強かった印刷を学問的に研究され、より工学的に取り組む教育を訴えられてこられました。1950年後半、印刷と画像分野に新しいテクノロジーが開花しつつありました。感光性樹脂、電子写真、光メモリーの新技術が目まぐるしく提案され、画像情報記録技術にとっての黎明の時代でありました。印刷製版では19世紀以来使用されていた有害な重クロム酸系感光材料から有機感光材料に変わる時代でした。工学部の画像関連学科として永い伝統を持つ写真工学科と印刷工学科を包括したより広い工学体系から見直した教育と研究を行い、産業界のニーズに応えるべきであると主張しておられました。そのようなお考えに周囲の方の理解も徐々に深まり、昭和51年画像工学科への改組が実現されました。

学外においては、(社)日本印刷学会の理事、副会長、評議員を歴任された他、多くの関連学会で活躍されました。そして昭和54年には印刷工学全般にわたる学術業績に対して、野間奉公会より「野間賞」を、平成2年春には勲三等旭日中綬章の叙勲を受けておられます。

先生は感光性樹脂のご研究をライフワークとされ多くの成果をあげられましたが、先生と数名の方が中心となり、わが国でフォトポリマーの研究開発に携わっておられた企業や大学の方たちと「フォトポリマー懇話会」を設立され、この分野の研究者・技術者が異域同舟し情報交換、研究発表を行う重要な「場」を提供されました。多くの方の賛同と協力を得て、現在は毎年フォトポリマーの国際会議「Photopolymer Conference」の開催と国際誌「Journal of Photopolymer Science and Technology」の発行へと発展し、これらはこの分野で国際的リーダーシップの役割を担っております。

そのご業績は今や印刷工学から変貌を遂げた情報産業界にあってもいつまでも色あせることはありません。今はただ先生のご冥福を祈るのみであります。

合掌

最終講義にて



立田研究室

今や通信は光の時代です。画像情報等の大容量情報伝送社会を支える光通信システムは、電話やファックスだけでなく、インターネットや音楽の配信など、ますます多様化していきます。この光通信システムは、光源、光ファイバ、光合波器等のさまざまな構成要素から成り立っています。

本研究室では、マルチメディア光通信網の更なる高度化をめざし、これら光通信システム構成要素の開発、性能特性評価ならびに光ファイバ応用技術の研究を行っています。以下に1例をあげます。

ファイバ型チューナブル光周波数フィルタの研究

光ファイバを用いると、いろいろな波長の光信号を同時に伝えることができます。すなわち、図1に概念図を示すように、1本の光ファイバに、多くの情報をまとめて伝えることが可能と期待されています。このような光周波数多重伝送システムでは、ファイバ内で混じっていた信号光を、出口できちんと分離する技術が重要となります。共振器を2枚の高反射率鏡で挟んで構成するファイブリ・ペロ・エタロンは、周波数分解能がきわめて高い分波特性をもつことか

ら、高密度周波数多重伝送システム用として有望です。図2は光ファイバコネクタの先端を加工して作成した素子です。このフィルタは、コリメータなどの光学系をまったく使わないで、標準の光ファイバコネクタと簡単に結合できます。また図4に示すように、非常にすばい分波特性が確認できました。

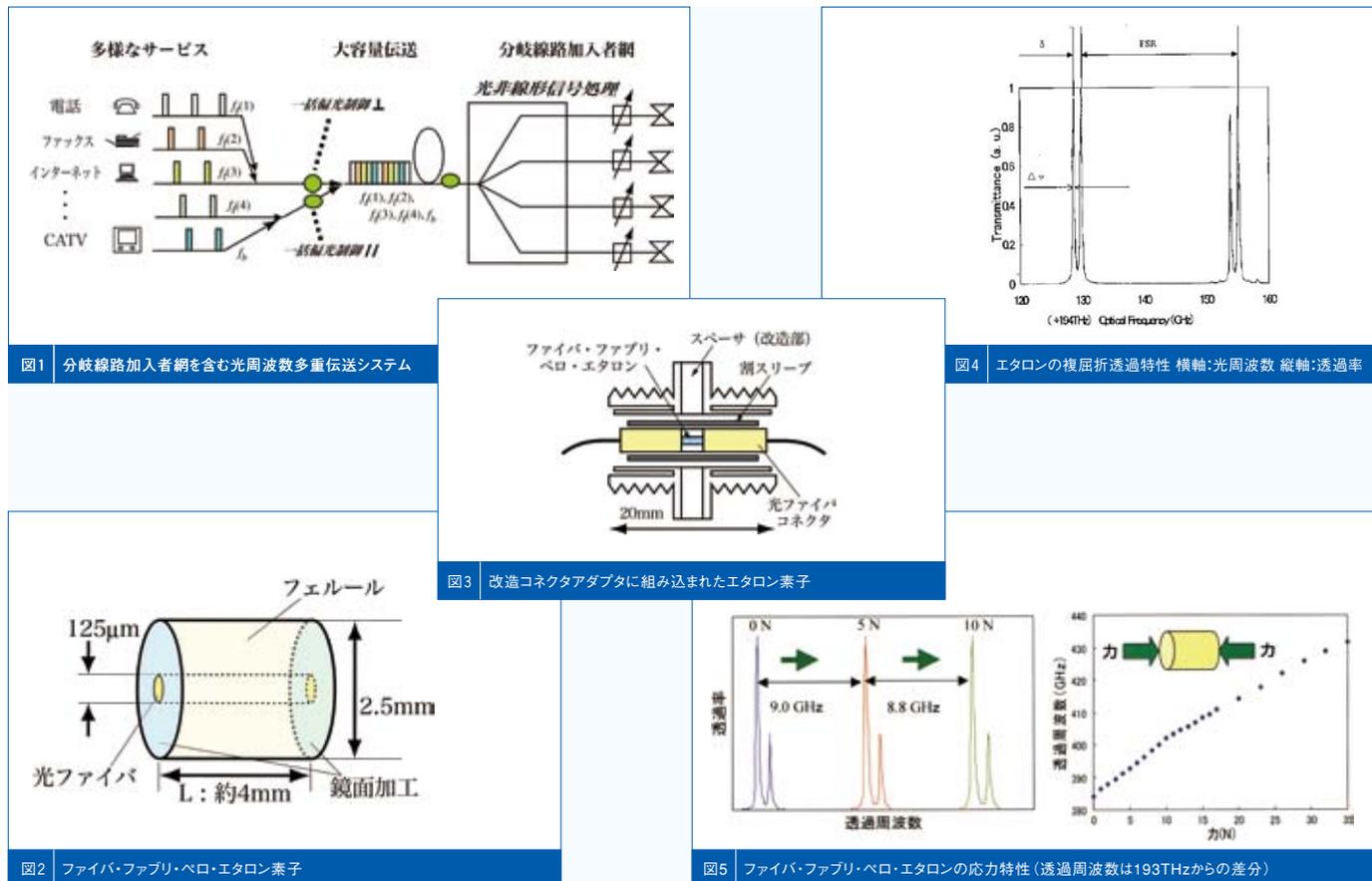
このフィルタを保護しているフェルールごと押さえ込んでみると、エタロンを透過する光の色が変化します。この性質を使うと、光のチューナーができます。たとえば、100の放送信号光がまじっているとき、これらのチャンネルの中から、

すきな放送チャンネルを選ぶことができます。

その他

ファイバ・ファブリ・ペロ・エタロンには複屈折特性がみられ、その大きさが温度や応力によって変化するなど、興味深い現象を発見しました。ファイバ1本を用いた双方向通信など、これらの性質を利用した魅力的な応用を研究中です。また、レーザと光ファイバの組み合わせによる特徴的な計測にも取り組んでいます。

(立田光廣 記)



久下研究室

当研究室では銀塩写真感光材料に関する研究を連綿と行ってきました。銀塩写真システムはこれまで画像記録の中心的存在でしたが、近年のデジタル写真システムの急速な普及で一般向けのニーズは縮小しつつあります。しかしながら、これまでに蓄積された膨大な技術を散逸させることは大きな損失です。さらに銀塩写真システムには、高い解像力や保存性など他のシステムでは追従できない長所を有しています。これらの蓄積技術を継承し、その長所を活かしていくことで、これまでとは違った新しい分野を切り開いていくことができます。

【金沈着現像】

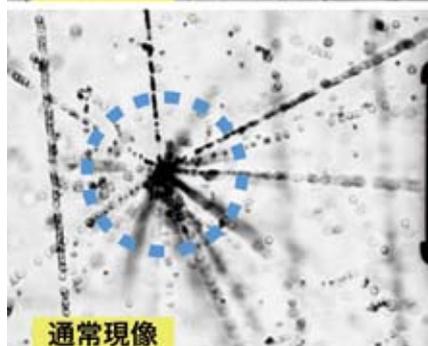
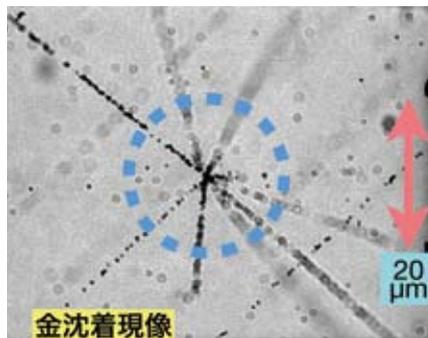
このような視点から金沈着現像という埋もれていた写真技術を掘り起こし、改良を加えました。このシステムを用いた金微粒子写真、金膜写真は、より高い解像力と画像保存性を有しており、これまでの写真分野とは異なる方面への展開を可能とするものです。

【金微粒子写真】

金微粒子写真では金沈着現像処理により金微粒子で写真画像を作ります。像を作る金微粒子はコンパクトな球状となります。これまでの現像銀粒子がフィラメントを形成して、それらの集まった毛糸玉状となって広がるのとは比べると、この像ははるかに精細なものとなります。写真感光材料はもともと最大10000本/mmという解像力を有していますが、これ以上の解像力が期待できます。さらに高解像力でありながら、高感度、赤外光領域に及ぶ長波長光感度、放射線に対する感度を有するなどの長所をあわせ持っています。これらの長所をふまえて、ホログラム記録や、放射線飛跡記録の分野への展開を図っています。また生じる現像廃液は、これまでの現像廃液のような高濃度の有機還元剤や無機塩類を含まず、処理がはるかに容易です。

【放射線飛跡記録】

素粒子理論から予測される100億分の1秒程度の短寿命素粒子の飛跡は



原子核がバラバラになって、破砕片が飛び散る様子を記録した写真。金沈着現像の方が破砕片が1点から飛び散る様子が、細かく記録されています。

μm 程度なので、飛跡検出にはこれだけの解像力が必要です。金微粒子写真では解像力はさらに上昇して、飛跡同定能力が向上します。放射線医学総合研究所や名古屋大学などと、放射線飛跡検出技術の共同研究を進めています。

【金膜写真】

金微粒子写真を焼成すると、金微粒子は溶融して金の膜となり、金微粒子の画像をそのまま金の膜に変換した写真となります。この金膜写真でも高解像力は保持されていま

す。また、金光沢を持った写真や、ダイレクトポジの写真が得られるなどの写真表現上の特徴を持ちます。さらに金膜写真は金膜のみからなる画像なので、化学的にきわめて安定で、1000年オーダーの高い保存性を持った写真を作製することも可能となります。

【陶磁器写真】

陶磁器上に保存性良好な金膜写真を写し込むこともできます。写真を陶磁器の図案として用いることができ、新しいデザインを持った陶磁器の作製が可能となり、また逆に写真を陶板等に埋め込むことにより、永久保存可能な写真を作製できます。

【金膜ホログラム】

既存のホログラム記録材料は、回折格子を形成するポリマーの安定性が乏しく、像が消失するという問題がありました。そのためホログラムは消耗品



白い磁器皿に作製した金膜ホログラム

の扱いでした。金膜写真のホログラムは半永久的な保存性を持たせることができます。芸術作品の屋外展示も可能となります。また陶磁器の図案として用いることもできます。

【超微粒子乳剤の研究】

高解像力を得るためには、数十nmのハロゲン化銀超微粒子からなる超

微粒子写真乳剤の使用が不可欠です。これまで超微粒子乳剤の写真特性についてはあまり研究されていませんでした。超微粒子乳剤の特性を調べ、有効な増感法を見いだす研究を進めています。超微粒子乳剤での感度低下要因をつきとめ、ハロゲンアクセプターを使用することで大きな感度上昇が得られることがわかりました。

現在、久下准教授と酒井技術職員で研究室の運営を行っています。2007年秋に博士1名を送り出しました。現在は修士4名、学部4年生3名が勉学と研究に励んでいます。 ■



(久下謙一 記)

研究室紹介

小林裕幸研究室

1999年の画像工学科から情報画像工学科への改組の際に新たにできた研究室である。当時、私は大野先生、大川先生と組んで写真材料を主に電気化学的手法で研究していたが、小林範久先生、星野先生、大川先生と言った電気化学を得意とする若い先生がどんどん活躍するようになる一方で、大江先生、久保先生が去り、画像解析、評価、作画といった教育が手薄になり、これから先の自分の役割について考えさせる時代でもあった。そこで改組を機に、「いい画像とは何か、どうしたら作れるか」を担った研究室を立ち上げることを決意した。青木先生にも参画いただき、今日まで一緒にやってきた。大学の1年先輩で非常勤講師をお願いしている工芸大の犬井先生にもいろいろな形でご協力いただいている。電気化学時代の卒業生から裏切り者とののしられることもあったが、新たな研究室からの卒業生もいろいろな分野で活躍をはじめ、その便りを聞くたびに、よかったのかなと思う今日この頃である。下に研究室の研究の一部を紹介する。

1) ノイズ付加による画質向上

今までノイズは悪玉としか考えてこられなかったが、ノイズ付加によって画質が向上されることがある。

●**質感向上**: 図1右側の写真の木部にノイズが付加されている。ノイズが付加されていない左側のものに比べ質感が向上している。

●**記憶質感の提案**: ノイズ付加による質感向上のメカニズムとして記憶質感を提案している。

●**鮮鋭性向上**: 図1のノイズ付加は鮮鋭性の向上ももたらす(認知科学的効果)。

2) 絵画情報の画像への適用

人類が長い年月をかけて築き上げてきた絵画の技術に学ぶことは大きい。



図1



図2



図3

●**肌色情報の適用**: ルノワールの肌色を写真に移植したもの。ルノワールらしき重要な紅をさした頬部の表現の自動化に工夫をした。

●**筆触の適用**: 写真を絵画風にするのが目的ではなく、心地いいノイズとしての筆触の付加。質感の向上が得られる。図2右側の写真にモネの筆触が付加されている。

●**写真から手描きペン画の作成**: 線、点の種類を選べばエッチングなどいろいろなバリエーションが可能である。図3はフェルメールの絵画をペン画にした。

3) 画質の印象効果

画質はただいいとか悪いだけでなく、いろいろな印象をもたらす。 ■

(小林裕幸 記)

▶ 同期会レポート



東高芸の会

2007年11月18日、東京高等工芸学校・東京工業専門学校の卒業生を中心に組織する「東高芸の会」の第23回懇親会が、東京のホテルJALシティ田町で開かれました。毎年約20人ほどが集まっています。今回は、国立大学法人千葉大学副理事の杉本俊彦さんと基金室長の鈴木守さんをお招きし、千葉大学の近況を聞きました。 ■
(江越壽雄、山本隆太郎) ※写真は2006年の時のものです。



印刷工学科昭和39年卒同期会

2007年11月10日、銀座そば所「よし田」で13人の同期仲間が集まり、近況報告等の話題でお互いの生きがいを確認し、来年の再会を約束し散会しました。 ■
(正田章)



印刷工学科昭和45年卒同期会

2007年11月17日、湯島の鮎いづで17人の同期仲間が集まり、同期会を開きました。われわれの同期は毎年同期会を行っており、一クラス40人中毎回15~20人集まる盛況ぶりです。 ■
当日は、1次会としてゴルフを、また3次会として10人以上が後楽園で酒を呑み交わしました。 ■
(犬養俊輔、山内亮一)

▶ 卒業生がんばっています ▶

小幡秀樹

(1995年 北村孝司研究室を卒業)

卒業後地元仙台で就職し、今はDMの企画や営業サポートなどを担当しています。業界のセミナーなどに参加すると、今でも画像工学の諸先輩方にお会いすることが多く、人生の先輩としてもアドバイスをいただいております。 ■



株式会社ユーメディア
お客様サービスチーム
グループリーダー

宮脇修三

(1996年 廣橋亮研究室を卒業)

都内の印刷会社に勤務後、4年前家業継承のため高松に帰郷し、広告写真の企画・制作会社を運営しています。先輩方にお会いする機会は減りましたが、同窓会報などで先輩方の活躍を拝見すると励みになります。卒業後すぐにはわかりませんでした。ここ最近では同窓会のありがたさというものを実感しております。 ■



有限会社アートスタジオ・グローブ
ディレクター・カメラマン

金木真人

(1996年 山岡亜夫研究室を卒業)

デジタルプレートのお客様サポートを担当して10年になります。一昨年からは、環境対応への市場ニーズが高まりケミカルレスプレート:Azura(アズラ)導入に関する仕事が増加しています。画像工学の講義で学んだ「未来の印刷材料」を先駆けて、諸先輩方の印刷会社にご紹介させて頂いていることを誇りに思っています。 ■



日本アグファ・ゲバルト株式会社
グラフィックシステム事業部
技術本部 感材グループ勤務

埜 敬子

(2002年 杉森康宏研究室を卒業)

現在、インクジェット複合機のファームウェア設計業務を行っています。今年から画像処理関連の業務の一部を任せられるようになり、大学で学んだ基礎知識の大切さを改めて感じました。今は、仕事を通じてその基礎の上にさらに多くのことを積み上げ、積み上げたことを仕事に活かすという良いサイクルができるよう努力の日々です。 ■
会社の先輩方には、本当にお世話になっています。また、活躍しておられる先輩方を見ると、励みになります。自分も、先輩からそう見られるように、頑張っています。



キヤノン株式会社
インクジェット事業本部勤務

平成18年度に、下記の皆様よりご寄付を戴きました。厚く御礼申し上げます。

【10口】

・日高芳典(昭24)・関源一郎(昭51)

【9口】

・永谷宗次(昭22)・中島俊明(昭34)・犬養俊輔(昭45)・湯本好英(昭51)

【5口】

・井下広(昭15)・山本芳正(昭31)・小川圭一(昭33)・後藤慎一(昭35)・山田稔男(昭43)・高瀬喜久(昭47)・中村圭(平9)

【4口】

・町田恵一(昭23)・野原昭光(昭23)・水野隆治(昭23)・横山弘(昭31)・岩瀬一美(昭32)・土屋元彦(昭33)・岩田克彦(昭36)・正田章(昭39)・勝間健一郎(昭49)・黒川豊治(昭51)・大嶋孝一(昭51)・小林克彦(昭55)・鈴木英夫(昭58)・郭國泰(平1)・生澤豊(平2)・今井淳一(平3)・島基之(平4)・吉田淳(平18)

【3口】

・小野正和(昭34)・今城力夫(昭36)・横山喬(昭40)・樋口武(昭42)・樋谷久人(昭43)・白鳥真太郎(昭46)・足立純一(昭50)・平賀祐二(昭55)・平野幸和(昭58)・村田靖彦(平9)

【2口】

・久保宏子(旧教職員)・土方英彦(昭17)・児玉庄晤(昭22)・鈴木元治(昭22)・山根節雄(昭23)・奥貫信(昭24)・亀岡勇(昭25)・川又健一(昭25)・関根慶治郎(昭26)・久保走一(昭26)・山崎章吾(昭26)・山本之彦(昭29)・北村維敏(昭29)・小林英世(昭31)・高嶋宏昌(昭33)・三位信夫(昭33)・三浦祥司(昭35)・手塚純夫(昭36)・高橋通彦(昭37)・安達昭三(昭37)・沼野博文(昭39)・高原直哉(昭39)・日比野繁雄(昭39)・三浦英徳(昭39)・坂本洸二(昭41)・佐々木勝(昭42)・斉藤光範(昭42)・小田洋三(昭43)・斉藤延夫(昭45)・佐々木孝(昭46)・山口収一(昭47)・金子茂(昭47)・玉虫幸雄(昭48)・山田秀夫(昭48)・加藤信行(昭49)・山本真理(昭50)・清水忠(昭50)・村上隆(昭51)・芝木儀夫(昭54)・安斉孝之(昭56)・小池良二(昭56)・杉野剛士(昭57)・寺松真一(昭57)・田口正規(昭58)・岩瀬広(昭59)・宮田弘幸(昭59)・三村到(昭59)・小宅光行(昭60)・綾部時則(昭60)・鈴木康浩(昭62)・岩田耕平(昭63)・平山巖(昭63)・杉本和俊(昭63)・大森雅久(平1)・喜多村淳(平2)・貫井義昭(平3)・金子徹(平5)・鈴木慎也(平8)・小谷口博光(平10)・田中康弘(平17)・田中浩之(平17)

【1口】

・広橋亮(旧教職員)・松島義昭(昭13)・平山秀樹(昭16)・豊福潤也(昭16)・倉田宏(昭18)・蛭海進(昭22)・小島康男(昭22)・新見恵司(昭23)・保坂忠夫(昭23)・伊藤忠彦(昭25)・野本拓夫(昭26)・岡田貢(昭26)・當間章雄(昭26)・原誠(昭26)・安野惟夫(昭26)・清水丈夫(昭26)・飯野正己(昭28)・小松康世(昭29)・西島成一(昭29)・竹原悟(昭29)・大高進二(昭29)・佐久間悌(昭29)・木村敏男(昭29)・金子実(昭29)・山中康臣(昭30)・高宮敬二(昭30)・根本安規(昭30)・浜本実雄(昭30)・武田市太郎(昭30)・大越輝夫(昭30)・長谷川泰政(昭30)・鈴木洋(昭30)・吉田勝郎(昭30)・當麻守彦(昭30)・益永三生(昭31)・設楽清(昭32)・清水伸一(昭32)・鈴木章方(昭32)・蛭原貞夫(昭32)・蛭原富司也(昭32)・半沢敏雄(昭32)・平本泰章(昭33)・中島允子(昭33)・勝田禎治(昭33)・木城茂雄(昭33)・会田源吾(昭34)・境野誠哉(昭34)・大戸通弘(昭34)・深津和彦(昭34)・柿崎謙介(昭35)・菱山幹夫(昭35)・森島毅(昭35)・熱田利一(昭35)・伊藤尹一(昭35)・黒川静(昭36)

・道城国生(昭36)・竹内修(昭36)・高橋登志雄(昭36)・田口英明(昭36)・砂川徹(昭36)・青木節夫(昭36)・勝村勇(昭36)・田邊功(昭36)・西邦夫(昭36)・河野功(昭37)・橋本博(昭37)・今井幹雄(昭37)・三村一俊(昭38)・川名諒一(昭38)・川口勇(昭39)・樋口宗治(昭39)・上田颯人(昭39)・原忠義(昭40)・豊田芳州(昭40)・大野隆司(昭40)・菅原大作(昭41)・手塚辰保(昭41)・村越位光(昭41)・廻谷勝三(昭41)・堀越仁(昭41)・吉岡達夫(昭41)・荻野洋二(昭41)・丸山良克(昭42)・熊坂建吾(昭42)・諸岡征之(昭42)・大久保孝雄(昭42)・山田敏雄(昭42)・緑川洋行(昭42)・野中通敬(昭42)・板倉昌孝(昭42)・山田信之(昭42)・田口慎一(昭43)・伊東寛治(昭43)・程谷隆(昭43)・宇田川研(昭44)・佐野和雄(昭44)・中島昭博(昭44)・日野正彦(昭44)・富山昌史(昭44)・橋本清治(昭44)・青木隆男(昭44)・藤井一城(昭44)・佐々木万方(昭44)・原嶋克巳(昭44)・中塚木代春(昭44)・広瀬祐三(昭45)・春田昌宏(昭46)・杉本彩二郎(昭46)・原口米夫(昭46)・正木達夫(昭46)・石田浩男(昭46)・寺沢賢一(昭47)・鈴木明(昭47)・北村孝司(昭47)・佐藤晴邦(昭48)・定田明(昭48)・寺川茂(昭49)・矢場莊一郎(昭50)・佐々木慎一(昭51)・下川原厚男(昭51)・秋葉齊(昭51)・川口匡(昭51)・征矢明彦(昭52)・奥村信悟(昭52)・藤森博(昭52)・小林孝年(昭52)・横田正男(昭53)・小田透(昭53)・小出哲司(昭53)・末光尚志(昭53)・久保敬司(昭54)・鴨井正文(昭54)・渡辺幸保(昭55)・中村彰男(昭55)・中村正樹(昭55)・平林俊樹(昭55)・仙波季長(昭55)・井上充夫(昭56)・谷本啓介(昭56)・末光裕治(昭56)・岡本実(昭56)・若山裕康(昭56)・鈴木敦(昭56)・岩崎弥平次(昭57)・緒方俊文(昭57)・大澤郁夫(昭57)・中村博明(昭57)・中田規夫(昭57)・坂本敬亮(昭58)・菊井伸介(昭59)・西川悟(昭59)・小村博史(昭59)・中村直正(昭59)・中村勝利(昭60)・高橋英夫(昭60)・小倉正通(昭61)・平林伸夫(昭62)・丸山美恵子(昭62)・湯根陽児(昭62)・中村正義(昭63)・西沢隆司(平1)・金場吏吉(平2)・関谷建作(平4)・金東君(平4)・石田知仁(平5)・森敦(平6)・世良祐一(平6)・酒井伸和(平8)・西川宏明(平8)・宮本崇(平9)・玉井奈津子(平9)・吉川和寿(平9)・山本浩二(平9)・前嶋慶一(平10)・菅原勝彦(平11)・福元隆司(平12)・沼本格(平13)・大田泰之(平13)・明新直也(平13)・渋谷岳人(平13)・宮原誠司(平13)・丸井隆志(平14)・菊池智博(平14)・和田一高(平14)・横手俊倫(平15)・櫃岡祥之(平15)・平澤福輔(平15)・森本太郎(平15)・朝鳥幸子(平16)・中島恭子(平16)・渡邊直孝(平16)・東海林智行(平17)・松崎敬文(平17)・本間隆介(平18)

※敬称略、()は卒業年。

年会費納入のお願い

会報発行などの同窓会の活動運営は、主に会員の皆様からの年会費でまかなわれております。正会員の皆様には、同封の振込用紙にて年会費(1,000円)を納入下さいますようお願い申し上げます。

なお、情報画像工学科卒業生には、在籍時の所属コースに関係なく、卒業生全員に送付いたしております。年会費の納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。

同窓会からのお知らせ

■2006年度(平成18年度)事業報告

1. **2006年4月**
画像工学同窓会ホームページ開設
2. **2006年7月22日(土)**
関西支部総会・懇親会:キエフ(京都)
3. **2006年9月14日(木)**
幹事会:千葉大学
4. **2006年12月**
会報第9号の発行
5. **2006年12月19日(火)**
産学技術交流会:千葉大学内けやき会館
6. **2007年2月8日(木)**
第10回定時総会・懇親会:PAGE2007会場内
講演者:阿部幹雄氏
7. **2007年2月8日(木)**
第7回技術講演会:PAGE2007会場内
8. **2007年3月23日(金)**
卒業生を励ます会:千葉大学内大学会館
9. **2007年3月**
ホームページを利用した会員からの情報収集システムの構築
10. **2007年1月から**
『印刷雑誌』へ同窓会情報発信の掲載を犬養会長の寄付で試験的に始める

■2007年度(平成19年度)事業計画

1. **2007年4月より**
『印刷雑誌』へ同窓会情報発信の掲載を犬養会長の寄付で同窓会事業として始める
2. **2007年7月14日(土)**
関西支部総会・懇親会:キエフ(京都)
3. **2007年11月12日(月)**
幹事会:アルカディア市ヶ谷
4. **2008年1月**
会報第10号の発行
5. **2008年2月7日(木)**
第11回定時総会・懇親会:PAGE2008会場内
6. **2008年2月7日(木)**
第8回技術講演会:PAGE2008会場内
7. **2008年3月24日(月)**
卒業生を励ます会:千葉大学内大学会館

■2008年度(平成20年度)事業計画案

1. **2008年7月上旬**
同窓生と学生による関東近圏での画像関連工場見学
(学生は会費無料)
2. **2008年7月頃**
関西支部総会・懇親会
3. **2008年10月頃**
幹事会:場所未定
4. **2008年12月頃**
会報第11号の発行
5. **2009年2月**
第12回定時総会・懇親会:PAGE2009会場内
6. **2009年2月**
第9回技術講演会:PAGE2009会場内
7. **2009年3月23日**
卒業生を励ます会:千葉大学内大学会館

■画像工学同窓会 2006年度(平成18年)度会計報告案

平成18年4月1日～平成19年3月31日

●収入の部

内 訳	予 算	決 算	差 額
前年度繰越金	8,562,026	8,562,026	0
総会会費	170,000	399,000	229,000
年会費・寄付	1,000,000	1,283,140	283,140
工学部同窓会より活動費	100,000	106,000	6,000
利 息	800	1,051	251
小 計	1,270,800	1,789,191	518,391
合 計	9,832,826	10,351,217	518,391

●支出の部

内 訳	予 算	決 算	差 額
委員会費	70,000	23,986	△46,014
新卒者を励ます会	170,000	170,000	0
総会経費	300,000	536,163	236,163
通信費	650,000	580,664	△69,336
会誌編集発行費	350,000	332,850	△17,150
活動費	100,000	0	△100,000
情報画像工学科技術交流会	100,000	100,000	0
支部活動推進費	100,000	100,000	0
ホームページ開設経費	530,000	525,420	△4,580
雑 費	10,000	0	△10,000
慶弔費	30,000	0	△30,000
小 計	2,410,000	2,369,083	△40,917
次年度繰越金	7,422,826	7,982,134	559,308
合 計	9,832,826	10,351,217	518,391

●次年度繰越金(平成18年度残高)内訳

定期預金(千葉銀行)	7,004,000
普通預金(千葉銀行)	526,009
郵便振替	344,150
現 金	107,975
合 計	7,982,134

平成18年度の収支決算について、関係書類を厳正に調査した結果、適正であると認める。
平成19年11月12日
会計監査役

from Editor

…編集担当から

「会員便り」の原稿募集

「千葉大学・画像工学同窓会会報」は10号となりました。次号も2008年12月頃に発行予定です。本会報では次号の発行に向けて、皆様からの原稿を募集しております。会員の皆様の同期会や近況報告、職場での集まりなどの様子を誌面の許す限り掲載していきたいと思っております。下記宛先まで、お名前、卒業年をご明記の上、お送りください。多数のご投稿お待ちしております。なお、お送りいただいた原稿・写真等は返却できませんので、予めご了承ください。また、掲載につきましては、編集担当にご一任くださいますようお願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学工学部情報画像工学科内

✉ shiba@faculty.chiba-u.jp 編集担当:柴